

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会  
第7回生活、総合的な学習・探究の時間ワーキンググループ

探究的な要素を持つ学びの充実を目指して

2026年6月12日

京都大学大学院教育学研究科 西岡加名恵

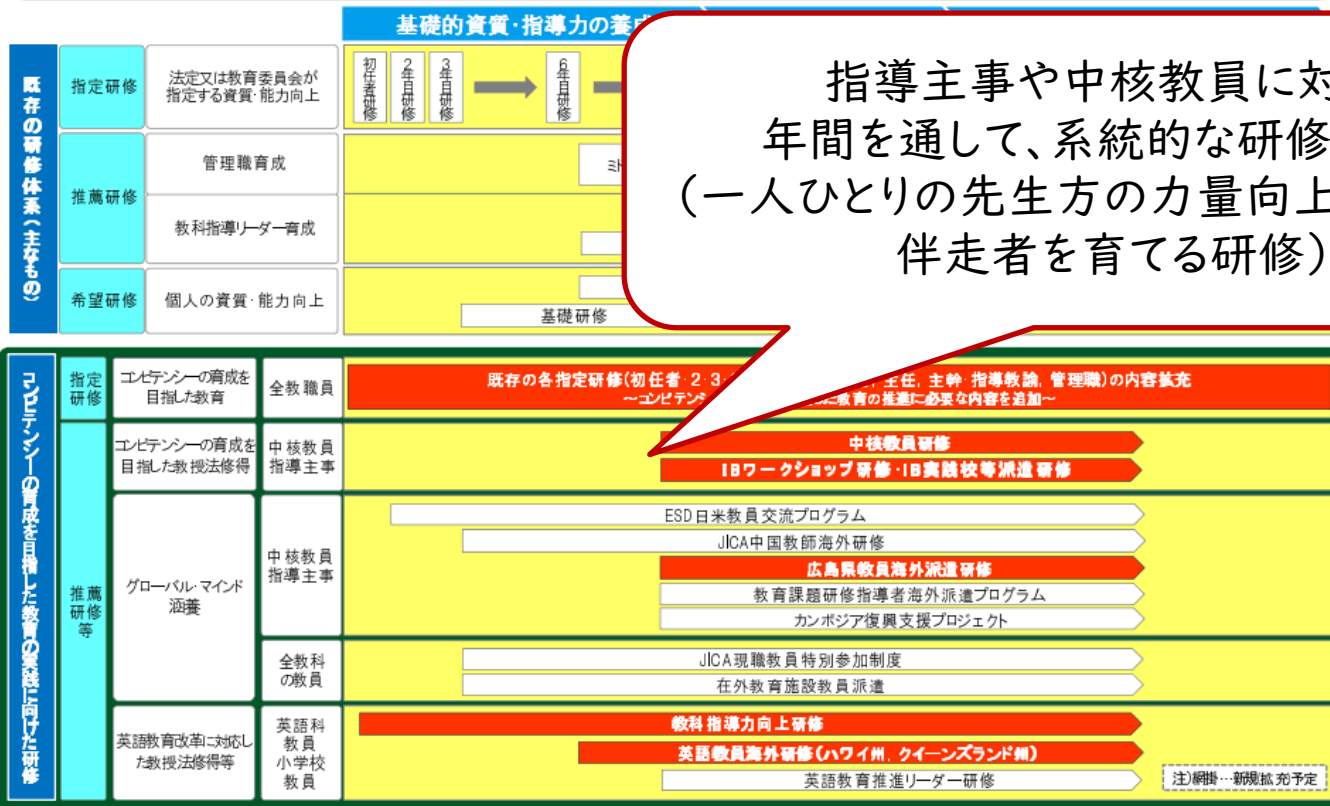
# 1. 学校を支える人々の力量を高める仕組み

## (1) 系統的な指導主事研修の提供

### ◎広島版「学びの革新」アクションプラン(2014年12月)

#### 【参考④】キャリアパスを見据えた研修体系の見直し(イメージ)

▶ 「これからの社会で活躍するために必要な資質・能力(コンピテンシー)の育成を目指した教育」を実践する教員に求められる資質・能力を明確にするとともに、既存の研修体系をベースに、コンピテンシーの育成を目指した教育の実践に向けた研修を拡充強化し、キャリアパスを見据えた戦略的かつ計画的な人材育成の仕組みの構築を目指す



指導主事や中核教員に対し、年間を通して、系統的な研修を提供(一人ひとりの先生方の力量向上を支援する伴走者を育てる研修)

# (2) 学生の参画による探究の充実

## ◎京大におけるサービス・ラーニング

「土の教育」普及啓発パンフレット

「土の学習」

はじめませんか？

できる  
つなぐ  
土が  
まもる  
そだてる ささえる

資料・web版はこちら/

### 「土の教育」プロジェクトについて

皆様は4パーミル・イニシアティブをご存知でしょうか？ 4パーミル・イニシアティブとは、「世界の土壌の表層の炭素量を年間0.4%（4パーミル）増加させることで、人間の経済活動によって発生する大気中の二酸化炭素を実質ゼロにすることができる」という考え方に基づく国際的な取り組み（農林水産省HP）です。  
また、「微生物を中心と土壌を環境要素の一つとして、それらの相互作用系

### 01 つなぐ

—土が「つなぐ」循環—

#### 落ち葉（養分と有機物）の循環

落ち葉には炭素・窒素、その他の有機物が含まれ、時間とともに細かく分解され、黒く湿った落ち葉の土となります。土の中ではタンニンやシロアリ、菌類など多様な土壌動物が落ち葉を食へ、菌類や細菌類によって有機物が分解され、炭素が土へ還元することで新たな植物が育つ養分となります。  
土の奥には微生物の代謝（生命活動）によるもので、奥いを通して微生物の、そして生態系全体を繋ぎあわせることができます。

（取りやすい単元）  
・小学校・生活  
・季節の文化と生活  
・自然や生き物・たねのこ  
・小学校理科・理科  
・身の回りの自然  
・中学校・理科  
・生物と環境

#### 水の循環

降雨の一部は蒸発散し大気へ戻り、残りは土壌に浸透して地下水や河川に流れます。土壌は保水・透水機能が高く、水を蓄え蒸発を調整して大気中に水分を供給しています。  
森林が「緑のダム」と言われるのは、土壌のこの役割が大きく関わっているからです。また、浄化槽によって汚染物質を蓄積・分解し、水質を保つ働きもあります。

（取りやすい単元）  
・小学校4年・理科  
・男女の行方と活動の様子  
・小学校理科・理科  
・生物と環境  
・植物の養分と水の通り道  
・小学校理科・社会  
・自然や生き物の自然環境と  
・国民生活と環境  
・中学校・理科  
・生物と環境

土壌はほとんどの元素の循環の根源的な役割を担っています。特に気候変動に大きな影響を与える炭素（C）、窒素（N）の循環において大気中での存在量のバランスを保つといった「つなぎながら維持、保全する」機能を果たしています。

### 探究してみよう！

#### ①観察・実験 落ち葉の実験

落ち葉は、未分解の落ち葉、穴が開いた落ち葉、粉々になった落ち葉の大きく3つに分れます。土の奥深くまで落ちていくことで、養分が分解されていく過程の他、大きく、奥い変化や分解を助ける土壌生物・土壌動物を観察できます。

探究  
落ち葉はどこに消えている？  
土をつくる上で、  
落ち葉はどのような役割がある？

#### ②観察・実験 保水・透水能力の実験

土壌保水できる量は？  
より多くの水を貯められるのはどのような土？

探究  
土を入れたらどう水を落とすと、水は少なくなり落ちは？  
土をつくる上で、  
落ち葉はどのような役割がある？

#### ③授業例 「土壌」を含めた炭素循環

炭素循環における土壌の役割はどのくらい大きいと思いますか。炭素の循環全体を把握で扱うことはありますが、右の図のように「植物」「大気」「動物」という各分野について「土壌」を通した関係として考えることはほとんどありません。しかし、「大気」「植物」「動物」そして「人間の活動」のいずれにも「土壌」は関係しています。さらに、これらと土壌との関係（炭素の流）は一方的ではなく双方向的なものになっています。「土壌」は炭素全体を循環可能なものにしていくためにとても重要な鍵の一つなのです。

「炭素の流」の移動可能な経路

#### 一発展— 窒素が気候に与える影響

窒素の循環が私たちが人間の活動によって壊れてしまうと、温室効果ガスの発生を促進してしまふことが明らかになっています。温室効果ガスには二酸化炭素だけでなく、窒素の化合物も含まれています。炭素循環だけでなく窒素循環においても気候へ大きな影響が与えられているのです。

1分程度で、資料も参照

「土壌」の探究に関して、土壌学の研究者と教育学部／教員志望の学生たちが連携して教材研究。学校現場で使えるパンフレットを作成してウェブ公開。

①大塚啓、高橋正、岡本由、大塚由美（2022）「環境教育」実践の現場、にみる大塚啓の「土」の教育実践。『環境教育』、大塚啓と高橋正編著。環境教育実践研究、10、1-14  
 ②「土の教育」普及啓発パンフレット「土の学習」  
 ③大塚啓、高橋正、岡本由、大塚由美（2022）「環境教育」実践の現場、にみる大塚啓の「土」の教育実践。『環境教育』、大塚啓と高橋正編著。環境教育実践研究、10、1-14  
 ④大塚啓、高橋正、岡本由、大塚由美（2022）「環境教育」実践の現場、にみる大塚啓の「土」の教育実践。『環境教育』、大塚啓と高橋正編著。環境教育実践研究、10、1-14  
 ⑤大塚啓、高橋正、岡本由、大塚由美（2022）「環境教育」実践の現場、にみる大塚啓の「土」の教育実践。『環境教育』、大塚啓と高橋正編著。環境教育実践研究、10、1-14  
 ⑥大塚啓、高橋正、岡本由、大塚由美（2022）「環境教育」実践の現場、にみる大塚啓の「土」の教育実践。『環境教育』、大塚啓と高橋正編著。環境教育実践研究、10、1-14  
 ⑦大塚啓、高橋正、岡本由、大塚由美（2022）「環境教育」実践の現場、にみる大塚啓の「土」の教育実践。『環境教育』、大塚啓と高橋正編著。環境教育実践研究、10、1-14  
 ⑧大塚啓、高橋正、岡本由、大塚由美（2022）「環境教育」実践の現場、にみる大塚啓の「土」の教育実践。『環境教育』、大塚啓と高橋正編著。環境教育実践研究、10、1-14  
 ⑨大塚啓、高橋正、岡本由、大塚由美（2022）「環境教育」実践の現場、にみる大塚啓の「土」の教育実践。『環境教育』、大塚啓と高橋正編著。環境教育実践研究、10、1-14  
 ⑩大塚啓、高橋正、岡本由、大塚由美（2022）「環境教育」実践の現場、にみる大塚啓の「土」の教育実践。『環境教育』、大塚啓と高橋正編著。環境教育実践研究、10、1-14

# (3) 力量向上・実践改善のためのデジタル活用



戦略的イノベーション創造プログラム  
Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program

Google 提供



お問い合わせ・ご意見・ご要望

- ホーム
- ポスコロSIPとは
- 研究開発テーマ
- 研究開発成果
- 研究機関向け

ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築 (ポスコロSIP)



<https://www.jst.go.jp/sip/pos/>

## サブ課題A: 「新たな学び」のデザイン開発

※2026年7月12日に研究開発成果を  
発信するイベントを開催予定

**参加費 無料**

**Society 5.0時代の「新たな『学び』」体験ワークショップ**

私たちは、Society 5.0時代に求められる「新たな『学び』」をデザインし、開発することを目指しています。本イベントを通じて、学習指導要領改訂の方向性やデジタルツールの活用を踏まえつつ、理念にとどまらぬ「新たな『学び』」を、学校や自治体といった現場で実践するための視点と実践のヒントをご提供できればと考えます。お問い合わせの上、ご参加ください。

2026年  
**7月12日**  
13:30~17:40 開場 13:00~

**会場** TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター  
東京都新宿区市ヶ谷八幡町3番地 TKP市ヶ谷ビル  
JR総武線 市ヶ谷駅 徒歩2分  
東京メトロ 市ヶ谷駅 7番出口 徒歩1分  
都営新宿線 市ヶ谷駅 4番出口 徒歩2分

**定員** 会場150名、オンライン500名

**参加対象** 学校教職員、教育委員会関係者、その他教育関係者

**申込方法** 下記サイトまたは二次元コードからアクセスしてお申し込みください。  
[https://global.survey.sj.com/ja/form/SV\\_BA2w12y8qznm4](https://global.survey.sj.com/ja/form/SV_BA2w12y8qznm4)

**応募締切** 早抽選 2026年7月5日(日)正午  
後抽選 参加者200名(抽選)迄  
オンライン参加 2026年7月10日(金)正午

**主催** SiP 戦略的イノベーション創造プログラム  
**共催** JST 科学技術振興機構  
ポスコロSIPサブ課題A  
「新たな『学び』」のデザイン開発

**後援** 文部科学省  
独立行政法人教職員支援機構  
一般社団法人エビデンス駆動型教育研究協議会

# ◎デジタルツインを用いた個別最適な学び方・働き方の実現 研究開発責任者：緒方広明教授（京都大学）

## デジタルツインを用いた個別最適な学び方・働き方の実現

内閣府第3期戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）では、「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」を実施しています。その中で、本提案では、これまで申請者が構築した教育ビッグデータを収集・活用するための情報基盤システムLEAFを拡張して、個別最適な学習や適材適所の配置に必要となる、人間中心のデジタルツイン(DT)として、オープン知識・学習者モデルOKLM（Open Knowledge and Learner Model）DTを研究開発します。そして、OKLMを用いて、仮想世界と実世界において、個別最適な教育・学習環境や働く空間を構成します。



※RefNavi（東北学院大学 稲垣忠教授チーム）：誰がどのような情報を集めているのか、進捗状況はどの程度なのかを可視化。

①の探究過程の可視化については、特に情報収集場面に着目しています。児童生徒は図書、ウェブ、フィールド調査など、多様なメディアから情報を集めています。誰がどのような情報を集めているのか、進捗状況はどの程度なのかを可視化することで、タイムリーな評価とそれに応じた支援が可能になります。開発中のRefNavi（レフナビ）では、生徒が集めた情報をデータベース化し、時系列、メディア種別、ジャンル、難易度など多様な指標で可視化することを支援します（図6）。



図6：RefNaviの画面イメージ（開発中）（クリックして拡大）

# ◎デジタル・シティズンシップ・シティ：公共的対話のための学校 研究開発責任者： 草原和博教授（広島大学）



※遠隔地をつないで、公共的対話を実現。教育委員会と大学が授業づくりを担う。教員研修としても機能。

## DCCの構成要素-Digital-Citizenship-City-

東広島市・広島大学連携  
広域交流型  
オンライン学習

まもなく開始！ご期待ください

学習のねらい

- 東広島市内の小中学生がオンラインでつながって、いっしょに地域について学びます。市外の小中学生ともつながります。
- 子ども同士や、子どもと大人との対話を通じて、社会的な見方・考え方を働かせたり、自分や集団の意見を練り上げたりします。
- 特に小規模校の子どもたちにとっては、多人数相手に説明したり発表したりする活動を通して、コミュニケーション力を育てる機会となります。

学習の特色

- 01 学校と学校をつなぐ  
オンラインで学校を超えて複数の教室・場所を結んで学びます
- 02 学校と社会をつなぐ  
意見や賛否の分かれる社会的な課題に向き合い、考えを伝えます
- 03 ひととひとをつなぐ  
様々な職業や年齢、文化的背景の人々と対話します

ご案内

QRコード

学習の特色

- 01 学校と学校をつなぐ  
オンラインで学校を超えて複数の教室・場所を結んで学びます
- 02 学校と社会をつなぐ  
意見や賛否の分かれる社会的な課題に向き合い、考えを伝えます
- 03 ひととひとをつなぐ  
様々な職業や年齢、文化的背景の人々と対話します

**D: デジタル** 離れた学校・教室をオンラインとAIで結ぶ

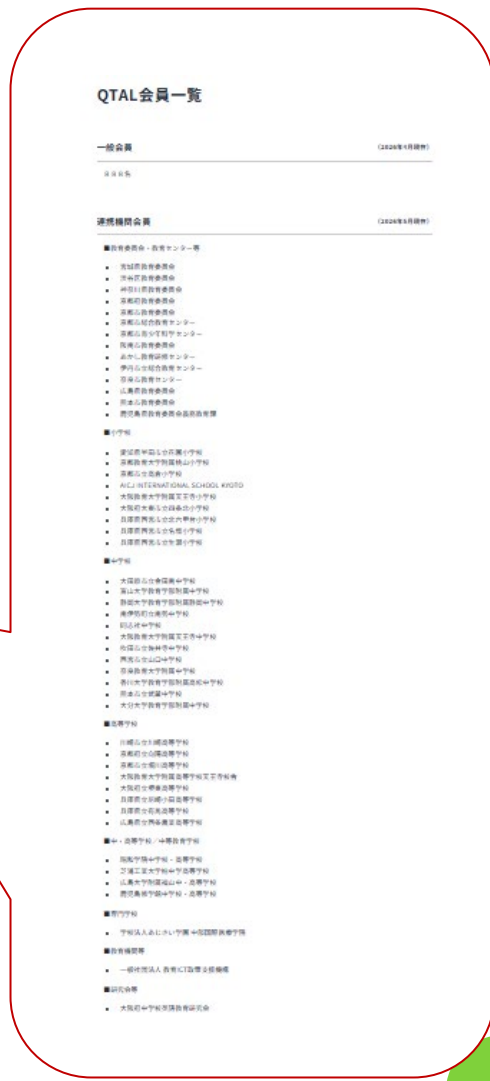
**C: シティズンシップ** 意見の分かれる課題に向き合い 社会の当たり前を問い直す

**C: シティ** 多様な背景をもつ他者、価値観を異にする他者と出会う場をつくる

(<https://sip-dcc.hiroshima-u.ac.jp/about/>)

# ◎真正で探究的な学びを実現する教育コンテンツと評価手法の開発 研究開発責任者：松下佳代教授（京都大学）

※指導案や教材、研修用コンテンツ等を集めたQTALサイトを構築。個々の教師たちだけでなく、教育委員会や学校の研修等での活用も推奨。



(<https://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/sip/>)

(<https://qtal.educ.kyoto-u.ac.jp/>)

## 2. ポートフォリオ評価法の活用

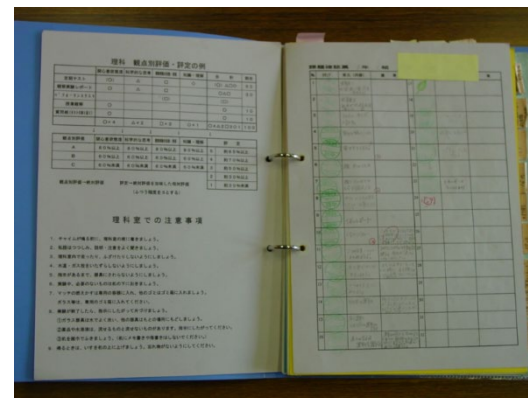
### (1) ポートフォリオ評価法

- ポートフォリオ：学習者（児童・生徒や学生）の作品や自己評価の記録、教師の指導と評価の記録などを系統的に蓄積していくもの
- ポートフォリオ評価法：ポートフォリオ作りを通して、学習者が自らの学習のあり方について自己評価することを促すとともに、教師も学習者の学習活動と自らの教育活動を評価するアプローチ

（西岡加名恵『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』図書文化、2003年）



（宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年）



（田中保樹先生提供。堀哲夫・西岡加名恵著『授業と評価をデザインする・理科』日本標準、2010年）

## (2) ありがちな3種類の誤解

- 子どもの振り返りだけが記録されている。  
→ 具体的な作品が収録されていないので、実際の探究の姿がよくわからない。
- 資料がたくさんためられているけれども、活用されていない。  
→ 単なるデータベースと化している。
- 長期にわたって収集されたデータが数値化され、レーダーチャートなどで示されている。  
→ 学生プロフィール・ダッシュボードと呼ぶべきもの。

※いずれも本来の「ポートフォリオ」とは似て非なるもの。

# (3) AICAN デジタル・ポートフォリオ (デジポ)

真正で探究的な学びを実現する  
教育コンテンツと評価手法の開発

AICAN NEWS

2025/11/11  
WALS (世界授業研究学会) 2025  
に参加しました (2025/11/10)

2025/08/20  
第2回ワークショップ「真正で探  
究的な学びを実現するパフォー  
マンス課題とは」を開催しまし  
た。

2025/08/08  
QTAL (Quality Teaching for All  
Learners) サイトを開設しまし  
た。

2025/07/31  
「探究的な学び」のデザイン・開発・評価に 関する調査報  
告書 (国外編) を発行しまし  
た。

NEWS一覧はこちら

AICANとは

Authentic and Inquiry learning focused educational Content and Assessment development

私たちは、内閣府による SIP (戦略的イノベーション創造プログラム) 第3期 (2023~2027年度) の課題の一つ「ポストコ  
ロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」に採択され、現在、「真正で探究的な学びを実現する教育  
コンテンツと評価手法の開発」(研究開発責任者: 松下佳代) というプロジェクトに取り組んでいます。

このプロジェクトでは、「社会を創る資質・能力」を育む「真正で探究的な学び」を実現するため、パフォーマンス評価を  
生かした教育コンテンツと、学びのストーリーを紡ぎたいデジタル・ポートフォリオを開発し、教員の探究指導力の養成  
と学校や自治体での実践に取り組んでいます。プロジェクトの愛称は、AICAN<sup>®</sup> (アイキャン) です。AICANの実践や研修  
にあなたも参加してみませんか。

研究開発責任者 松下佳代

AICAN  
学校ストーリーを紐く  
デジタル・ポートフォリオ

Googleでログイン

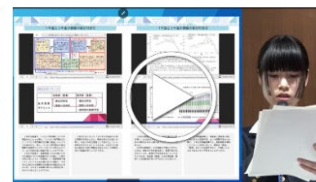
【教育・井上和隆】研究チーム

ユーザー情報  
ポートフォリオ一覧  
ポートフォリオ作成  
コメント一覧  
テンプレート管理  
グループ管理  
メンバー管理

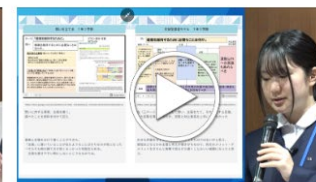
## 高等学校におけるデジタル・ポートフォリオの活用例



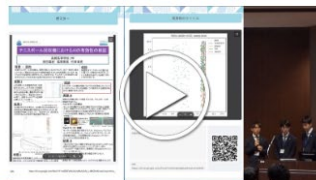
北海道札幌啓成高等学校



秋田県立横手城南高等学校



秋田県立湯沢高等学校



高槻高等学校 (村田チーム)



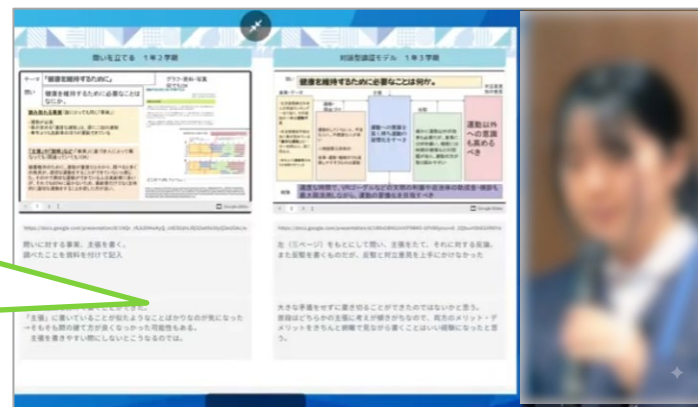
高槻高等学校 (北尾チーム)

# ※具体的な成果資料(エビデンス)と本人の語り: 「生徒が自らの学びのストーリーを紡ぐ」

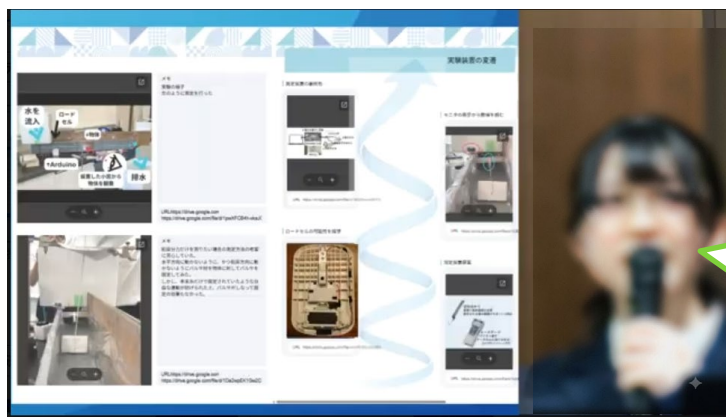


テニス部にいるので、テニスボール回収機がほしい。調べてみると、市販のものはちょっと高いので、もっと安いものを作るとというのが第2のゴールになりました。

事実と主張を分けることはできたのですが、主張が似たり寄ったりだと思い、掘り下げると、そもそも問いの立て方が甘かったと気づきました。

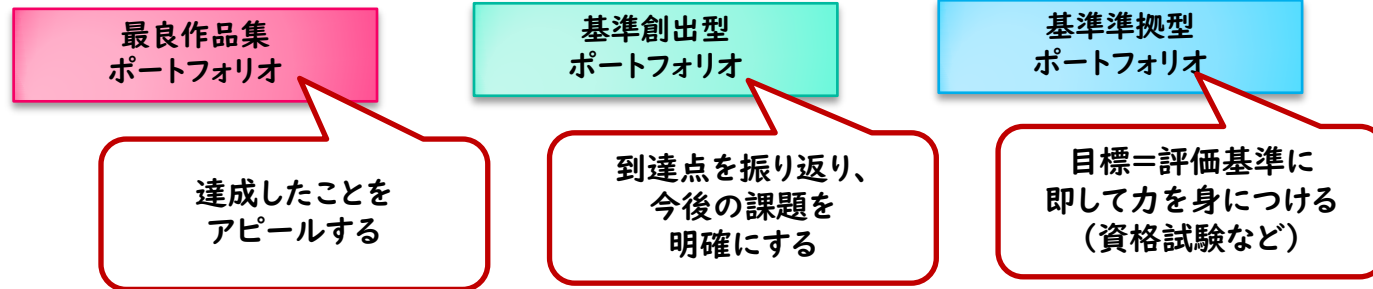


実験装置が難しかったんですね。垂直にかかる力と鉛直にかかる力を同時に測りたい。そこで、お母さんの許可をもらって、百均のキッチンスケールを分解しました。



# (4) ポートフォリオの所有権 (収める作品や評価規準・基準の決定権)

学習者 ←————→ 教育者



(西岡加名恵『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』図書文化、2003年)

## ※京都大学教育学部の特色入試



「様々な活動をまとめてみることで、活動の間にあったつながりや自分の特長に気づきました」(大平優斗さん)、「自分が達成できたことや自分の価値観の変化にも気づき、将来、挑戦したいことを思い描くことができました」(小山田遥さん)

## ※京都大学 教職課程ポートフォリオ



(西岡加名恵・石井英真・川地亜弥子・北原琢也『教職実践演習ワークブック——ポートフォリオで教師カアッ』ミネルヴァ書房、2013年)

## (5) 様々なタイプ

	最良作品集 ポートフォリオ	基準創出型 ポートフォリオ	基準準拠型 ポートフォリオ
単一の教科・ 領域等、 単年度		総合的な学習・ 探究の時間の ポートフォリオ	各教科の 観点別評価用 ポートフォリオ
小学校6年間 ／中学校3年間 ／高校3年間	キャリア・ ポートフォリオ (課外活動も含む) ※特別活動		資格認定用 ポートフォリオ

## (6) 取り組む上でのポイント

- ① 学習者と教師で見通しを共有する。
  - なぜ、作るのか？ 意義は何か？
  - 何を残すのか？
  - いつ、どの期間で作るのか？
  - どう活用するのか？
- ② 蓄積された作品を、編集する（整理・取捨選択する）。
  - ワーキング・ポートフォリオからパーマネント・ポートフォリオへ必要な作品を移す。
  - 検討会で見せる作品を選ぶ。
  - 目次を作り、「はじめに」と「終わりに」を書く。
- ③ 定期的にポートフォリオ検討会を行う。
  - 見通しを持つ。
  - 到達点と課題、次の目標を確認する。
  - 成果を披露する。

- 西岡加名恵編著『高等学校 教科と探究の新しい学習評価——観点別評価とパフォーマンス評価実践事例集』学事出版、2020年
- 西岡加名恵・大貫守編著『高等学校 「探究的な学習」の評価』学事出版、2023年



(宮本浩子先生提供。宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年参照)



## (7) ポートフォリオ検討会の進め方

- ① 問いかけによって、学習者の自己評価を引き出す。
- ② 学習者の言葉に耳を傾ける(待つ)。
- ③ 達成点を確認し、いいところを褒める。
- ④ 具体例の比較を通して、目標・評価規準(基準)を直観的につかませる。
- ⑤ 次の目標について、合意する。
- ⑥ 確認された達成点と課題、目標についてメモを残す。

※一斉授業(作品批評会など)の形で行うのでもOK

※中間検討会(ゼミ方式)で行う方法も…

- プレゼンをして、質問・助言を受ける
- 友達モデルに触れる
- 質問する力を養う → 自己評価力



# 3. 教科と総合の相互環流

## (1) 次期学習指導要領に向けた基本的な考え方

### 1. 学習指導要領改訂の大きな方向性とは？

#### 次期学習指導要領に向けた基本的な考え方

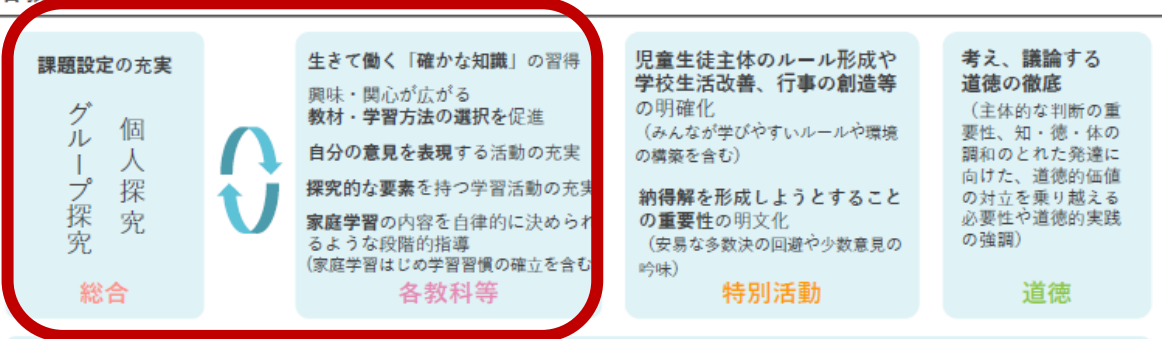
自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手の育成

「好き」を育み、「得意」を伸ばす (興味・関心) × 当事者意識を持って、自分の意見を形成し、対話と合意ができる

【各教科等での検討イメージ】

好き・得意をベースとした主体的な進路選択の促進

高  
中  
小  
幼



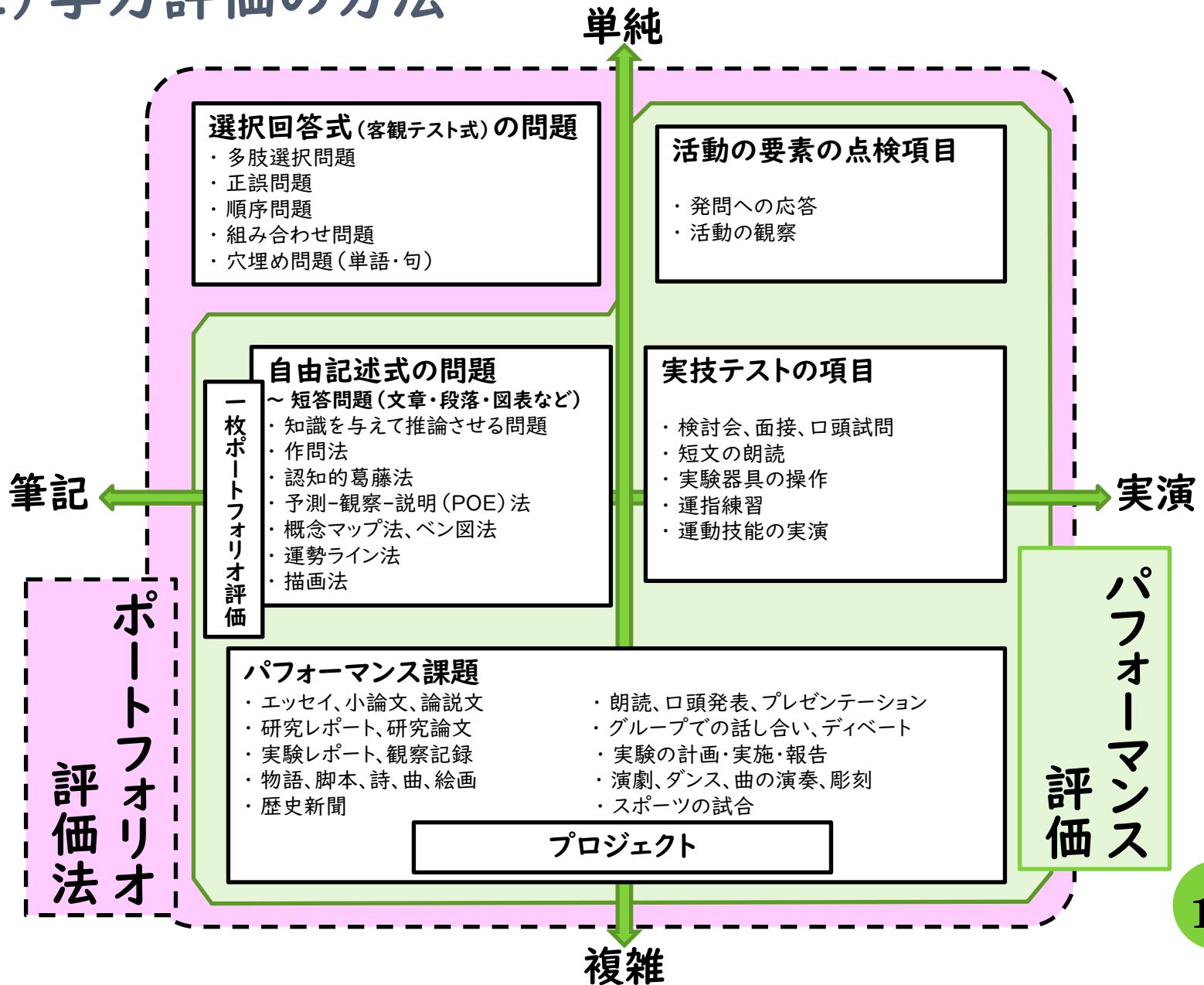
言葉を用いて思考を深めていく指導      他者と関わり協同する力の育成

多様な子供を誰一人取り残さない視点としての個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実      科学的知見も生かした効果的な指導計画・授業方法 児童生徒の学習方略の指導      障害や認知特性等、多様な実態を踏まえた調整 (教科等、家庭学習含む)      全ての活動の基盤としての心理的安全性の確保

学びをデザインする高度専門職としての教師      デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備  
「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白      総合的な勤務環境整備

※本イメージ図は、自らの人生を舵取りする力と民主的で持続可能な社会の創り手育成という今後の検討の一部を資料化したものであり、学習指導要領の改訂に関わる全ての要素を網羅する性質のものではない 3

## (2) 学力評価の方法



# (3) 教科におけるパフォーマンス課題の活用

## ※自動車運転のメタファー



知識(筆記テスト)



技能: 教習所のコース  
(実技テスト)



総合的な学習・探究の時間: ドライブ  
(ポートフォリオ評価法)



(広島県立広島高等学校(当時) 福本洋二先生の実践。西岡加名恵編著『高等学校教科と探究の新しい学習評価』学事出版、2020年)

(京都市立堀川高等学校(当時) 村井昂介先生の実践。西岡加名恵編著『高等学校教科と探究の新しい学習評価』学事出版、2020年)

# ※「探究的な学び」の整理

## 学習者の裁量に着目した「探究的な学び」の整理（イメージ）

補足イメージ3

- 「探究的な学び」は総合のみならず、各教科においても実施されているが、**総合と各教科における探究の違いや、探究的な学びの度合い、「探究」と「探究的な学び」との違い**については、必ずしも明確に整理されてこなかった。
- このことについて、「①課題」「②手続き」「③成果」の視点から、**学習者が自己決定できる裁量の度合いに応じて、以下のように参考資料等の形で示す**ことを検討してはどうか。

(※) 学習者の裁量が広がるほど探究的な学びが深まるものではなく、安易な学習者任せにつながらないよう留意

(1) 総合においては、高校段階で自己の在り方生き方に関わるパターン4を自律的に進めていくことができるようになることが目指され、小中学校段階においては、発達の段階や子供の実態も踏まえつつ、パターン4を適切に取り入れることを明確化してはどうか。  
※ いずれのパターンにおいても、教師の適切な指導性の発揮が必要

(2) パターン4であり、「①課題が自己の興味・関心や問題意識に基づく」「②手続きが試行錯誤を伴う」「③成果として新たな価値の創造を目指す」ものを「探究」として用語を整理してはどうか。

	①課題	②手続き	③成果
パターン4			探究
パターン3	✓		探究的な学び (各教科におけるいわゆるパフォーマンス課題等を含む)
パターン2	✓	✓	
パターン1	✓	✓	✓

↑ 学習者が自己決定できる裁量 (狭 → 広)

(3) パターン3やパターン2が外形的には「探究的な学び」として想定されることとした上で、各教科の学習においては、いわゆるパフォーマンス課題を含む探究的な要素を持つ活動を充実し、主体的・対話的で深い学びを通じて各教科の資質・能力を育成する観点から「探究的」に学ぶとはどうか。

(※) イメージ中の「✓」は、教師からどの範囲の情報が与えられているかを表している。

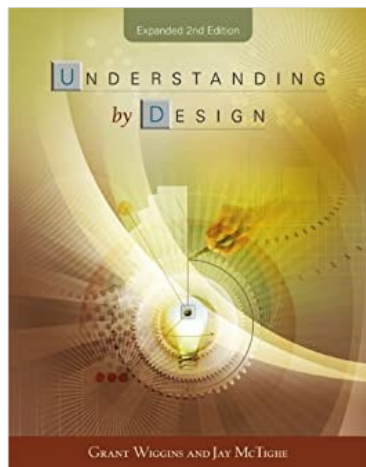
(※) 出典元において、パターン1～4はそれぞれ、「確認のための探究(confirmation inquiry)」、「構造化された探究(structured inquiry)」、「指導された探究(guided inquiry)」、「オープンな探究(open inquiry)」と表されている。

(出典) Banchi & Bell (2008)、白井俊「世界の教育はどこへ向かうか 能力・探究・ウェルビーイング」をもとに作成

7

(教育課程部会 生活科、総合的な学習・探究の時間ワーキンググループ「総合的な学習・探究の時間に関する目標・内容の構造化等について」2025年12月26日)

# (4) 「逆向き設計」論に基づく パフォーマンス課題の作り方



求められている結果  
(目標)を明確にする。

修了時をイメージする

承認できる証拠  
(評価方法)を決定する。

指導の前に評価方法を  
計画する

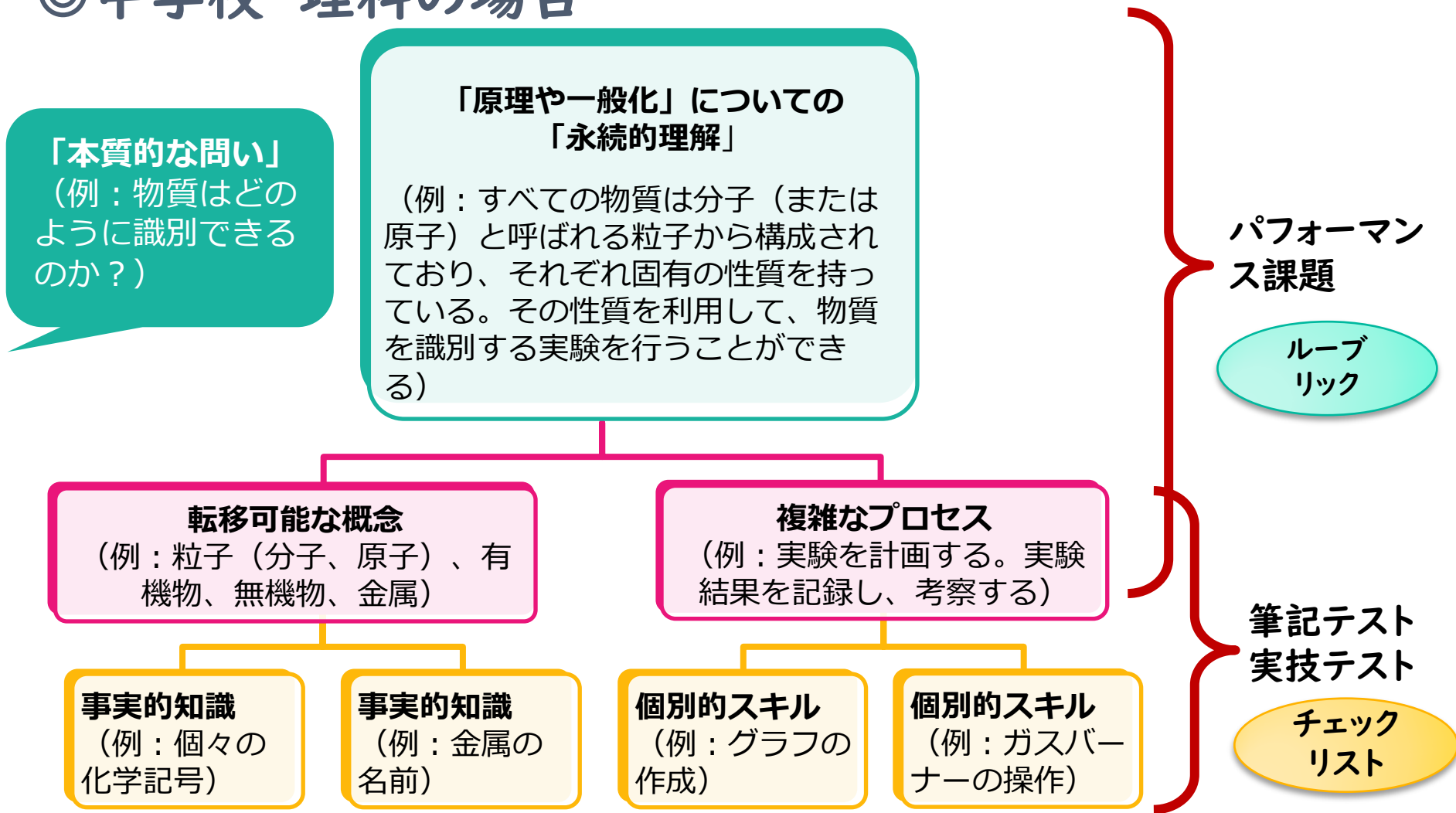
学習経験と指導を  
計画する

◎「理解 (understanding)」  
洗練された柔軟なやり方で知識とスキルを使える状態  
◎「理解の6側面」  
説明する／解釈する／応用する／  
パースペクティブ(俯瞰)を持つ／共  
感する／自己認識を持つ

◎「真正の評価」論  
現実世界において人が知識や能力を試される状況を模写したりシミュレーションしたりしつつ評価することを主張するもの

# ※「知の構造」と評価方法・評価基準の対応

## ◎中学校・理科の場合



(西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化、2016年、p.83をもとに作成。G・ウィギンズ/J・マクタイ、西岡加名恵訳『理解をもたらすカリキュラム設計——「逆向き設計」の理論と方法』日本標準、2012年参照。中学校の理科の例は、堀哲夫・西岡加名恵著『授業と評価をデザインする 理科』日本標準、2010年、p.175をもとに記入した)

# (5) 長期的な見通し

## 「本質的な問い」の入れ子構造

※繰り返し、質の良い「本質的な問い」に出合うことで、探究力が高まる。

中学校社会（歴史）：社会はどのような要因で変わっていくのか。どのように社会を変えていけばいいのか。

文明はなぜ生まれるのか。この時代の日本は他の文明から何を学ぶべきか。

明治維新によって日本社会はどのように変化したのか。明治維新後の日本において人々が幸福で平和に暮らせる社会を築くには、どうすればよかったのか。

戦争はなぜ起こるのか。戦争を起こさない平和な国を保つためにはどうしたらよいか。

